

会議名	令和6年度西尾市子ども読書推進委員会
日時	令和7年1月24日（金）午後2時～3時
場所	西尾市立図書館 会議室
出席者 【敬称略】	委員 安井克彦（委員長）、伊與田明美、齋藤武雄（副委員長）、手嶋雅美、 稲葉弘子、水谷文美乃、今本政勝、澤雅 事務局 齋藤俊幸、生田美恵、古居加奈、小林信子
配布資料	・委員会次第 ・第4次施策達成度進捗状況表（令和5年度実績・令和6年度見込み） ・西尾市子ども読書推進委員会名簿 ・西尾市子ども読書推進委員会規則

委員会の中で出されたことは以下のとおり。

1 あいさつ

- ・齋藤部長あいさつ
- ・各委員自己紹介
- ・委員長、副委員長選出

【委員長】安井克彦委員 【副委員長】齋藤武雄委員

2 議題

(1) 西尾市子ども読書活動推進計画進捗状況について・令和5年度実績

・令和6年度見込み

委員長 (1)の西尾市子ども読書活動推進計画進捗状況について、令和5年度実績と6年度の見込みの説明をお願いします。

事務局 第4次西尾市子ども読書活動推進計画の進捗状況について

令和5年度から西尾市子ども読書活動推進計画の第4次が始まりました。

具体的な取り組みの目標指数に対して、各担当課から報告のあった令和5年度の実績、令和6年度の見込みを反映させ、5年度の達成度の評価案を入れてあります。

◇基本方針1：家庭・地域における子どもの読書活動の推進

令和5年度評価（案）は「○」か「◎」が多くなっています。

【通し番号③1-1(3)】

「幼児の健康診査の会場で配布している、年齢に応じた啓発パンフレットの内容の見直し」については×となっていますが、現在配布しているものの内容を見直し、4次計画の5年間で行う予定をしているため、令和6年度は未実施です。令和9年度までに改訂し、1歳半健診の時に配布できるようにします。

【通し番号⑦1-1(7)】

「地域で活動する子育てサークルや出前講座で子どもの読書活動に関する啓発パンフレット等の情報を提供する」では、令和5年度までは保健センターのマタニティクラスで、絵本に関する講話や図書館情報の発信を年4回行っていきましたので、目標を達成していましたが、今年度から、この教室が（土）（日）に開催されるようになったため、図書館から出向くことが難しくなり、6年度は実施できていない状況です。今後は子育てサークルの活動の場に出かけていき、おはなし会の開催や絵本リスト等の情報を発信していきます。

◇基本方針2；学校等における子どもの読書活動の推進と学校図書館の充実
令和5年度の評価（案）は、ほとんど「○」か「◎」としました。

【通し番号②⑤ 2-3(1)・②⑥ 2-3(2)】

学校規模に合わせた図書資料の購入を計画的に行っている学校の割合と、学級文庫の図書資料を置く学校の割合が目標値を少し下回っているため、「△」としました。

◇基本方針3；図書館における子どもの読書活動の推進と図書館の充実
令和5年度の評価（案）は、ほとんど「○」か「◎」としました。

【通し番号②⑧ 3-1(1)】

読み聞かせに関する講座の実施回数については、目標の年8回に対し、令和5年度は本館のみで3回でしたので「△」としました。しかし6年度は分館でも開催し、達成できる見込みです。今年度は、主に小さい子どもを持つ保護者向けの読み聞かせ講座を9回実施する予定です。

【通し番号④⑦ 3-5(1)】

図書館ボランティアの養成講座の実施回数については、令和5年度は本館と吉良図書館で各1回の2回実施しました。6年度は、本館が1回、一色が2回、吉良が1回の4回開催する見込みですが、令和5年度、6年度とも目標の年10回開催は達成できませんでした。ボランティア講座と銘打った行事はこの数字でしたが、一般の方向けの読み聞かせ講座や絵本作家の講演会等に図書館ボランティアさんが参加されることも多いことから、結果的にボランティアの資質養成には繋がっていると考えています。しかし7年度については、意識して行事を計画していきます。

◇基本方針4；子どもの読書活動を推進するための理解・関心の普及とネットワーク化
令和5年度の評価（案）は、ほとんど「◎」でした。

【通し番号57 4-3(2)】

図書館では夏休みに子ども司書養成講座を開催しており、目標数を20人としているが、令和5年度は10人、6年度は13人で目標に達することができなかつたため「△」となりました。令和5年度は7講座、6年度は6講座を予定していましたが、小学生や中学生にとっては夏休期間であってもその日数を参加することが難しいため、参加者数が減少しています。

子ども司書の活動をより多くの人に知っていただくよう、令和6年度は、としょかんだよりで活動の報告や子ども司書推しの本のコーナーを設けるなど、興味を持っていただけるよう周知に努めています。

【通し番号60 4-4(1)】

「新たに図書館システムとネットワークを結んだ施設数」については、令和5年度図書館情報システムの更新時に横須賀ふれあいセンターに新たにシステムを設置しネットワークを結びました。

それまでは図書館情報システムなしで貸出や返却を行っていましたが、不都合も多く、利用者数も伸びませんでした。システム導入により便利になりました。ですが、施設数としてはまだ足りない状況です。

導入には費用的にも人的にも大きなコストがかかるため、費用対効果を考えなければいけないことと、5年ごとのシステム更新にあわせるのが最適であることから、9年度までにこれ以上の導入は難しいと考えますが、違った形での市内全域を結ぶ方策を検討していく必要があると考えています。

以上、第4次西尾市子ども読書活動推進計画の進捗状況説明とさせていただきます。

委員 評価(案)の「◎」や「○」は令和5年度の評価なのか、5年度と6年度を合わせた評価なのか。

事務局 令和5年度の評価です。

委員 通し番号25は、令和5年度は60%で20校、令和6年度は残りの15校ということか。

事務局 令和5年度は20校が学校規模に見合う図書資料の購入を実施した結果で、令和6年度は15校であったということで、この20校と15校は重複しています。5年度よりも6年度のほうが少ないことがわかります。

委員 あらためて調査した結果ということか。

事務局 そうです。

委員 35校のうち15校しかやらなかったということか。

委員 学校規模に見合う図書資料の購入数とはどういう物差しなのか。

事務局 四次計画の11ページの3学校図書館の図書資料・施設・設備の整備と充実の中の、[第三次計画の成果と課題]で児童1人当たり1冊以上の図書資料を購入する学校の割合は、約半数だったとなっており、これを受けて第四次計画を作成しています。児童1人当たり1冊以上の図書を購入することを目標としています。1人に1冊以上の購入は難しいのではないかと思います。そのパーセンテージがここに示してある数字です。

三次計画の目標指数に「児童・生徒数以上に」という文言が入っていたが、四次計画を作るときに学校側から達成が難しいとの意見があり、目標指数を緩くして学校規模に見合うという文言に変更した経緯があります。

委員 四次計画では1人1冊以上ではなく、学校によって物差しが違うということか。

事務局 そうです。

委員 新しい本が入れば子どもも喜ぶし、司書が行っている本のPRも派手になるのでよいと思う。児童書の平均的な値段として1,400円+税だと思いが、1,400円として八ツ面小学校で考えると560人なので計算すると784,000円になる。調べ学習だともっと高くなるため、購入費用が増えると思う。

委員 評価案の「◎」「○」「△」の基準について確認したい。目標を上回ると「○」になるのか。

事務局 目標値を達成できれば「◎」で、達成には至らなかったが、概ねできている状態であれば「○」または「△」とし、達成できていないものは「×」となります。

委員 目標が達成できていなくても、ある程度できていると判断したものは「○」ということか。

事務局 そうです。

委員 通し番号 57 の子どもから子どもへ読書の楽しさの伝達で、夏休み期間中に今年は 6 回だったようだが、子どもが来ることが難しいとのことだった。回数を検討するなど何か提案はあるか。また、推しの本のコーナーについて具体的にはどんなイメージなのか。

事務局 令和 5 年度は 7 回だったが、令和 6 年度は 6 回に変えたのも中身のやり方を精査して、参加者を増やすために対応しました。来年度の回数については検討中です。

子ども司書に認定された子が、子ども自身の言葉で自分の推し本を紹介しているので、それを読んだ他の子が本を読みたいと思ってくれるとよいと思います。

委員 おたよりを読んでもらう工夫が大切だと思う。図書館に来るとトピックスのようなコーナーが設けられていて、そこでは足を止めてワクワクしながら見るのでとても良いと思う。図書館に来た人が対象になるが、図書館のコアな魅力だと思うので大事にしてほしい。

委員 最近図書館で読み聞かせをされていて思ったことで、お父さんが子どもを連れてくる割合が高くなった。昔はお母さんと赤ちゃんが多く小学生は 1 人で来ていたが、今は小学生が少ない。小さい子ばかりになっていて、その子をお父さんが連れてきていることが多い。お父さんと子どものとても良い時間になっていると感じるので、図書館の企画でもお父さんも楽しめるものがあると良いと思う。

事務局 参考にさせていただきます。

委員 児童クラブへ本をたくさん運んできていただいております、小学生の子ども達が楽しみにしている。来年度、民間委託へ移行するが同じように貸出していただけるとのことなので、感謝している。児童館へ来ている子どもも低年齢化していて、午前中は乳児と祖父母やお母さんが多い。その対象者にあった読み聞かせやイベントをやってほしい。

委員 ブックスタートで関わりをもっている。コロナの時は難しいときもあったが、この事業で本に親しんでもらえれば良いと思う。本を通じていろいろな教育ができれば良いと思っている。今年度、お母さんも含め小さいうちから性教育に触れてもらうために、本を選んでいただいて教育に役立つのではないかと期待している。

コロナ禍以降、健診の待ち時間を少なくするようにしてるため、待ち時間に本に触れる時間が減ってしまい残念に思っている。本を使ってお母さん達に話をしたり、場面を紹介したりして本を活用することで理解してもらえることが 1 つでも増えると良いと思う。

健診もお父さんがくるが増えている。昔はお父さん、お母さん、子どもの 3 人でのパターンだったが、今はお父さんと子どもだけで来ることも増えている。お父さんが育児に参加するよい機会になればよいと思っている。

委員 学校現場でも授業参観などの行事で、お父さんの参加が増えている。男性教諭が自分の子どもの学校行事に行くことも増えている。パパ育休という言葉もあるように、育児をするお父さんが増えていて、自分たちの意識を変えないといけないと感じる。

子ども達に本を読ませたいと思っているが、先生達に聞くと先生達があまり本を読んでいない。自分は本を読んだら「この本は面白かった」という話を先生達にしている。先生達にも自分達が読んだ本を子どもには少し背伸びした内容かもしれないが、紹介してほしいと話している。

アニメーションやブックトークもあるが、自分が読んだ本を紹介するだけでも、本を読むとこんなすてきな大人になれると思ってもらえると良いと思う。

委員長 現場に行くと勉強しなければと思うが、現場にいると本が読めない。今は 1 日に 1 冊は

読むようにしている。No.25の学校の図書資料購入について、蒲郡市の中学校で子ども達に図書券を配ったのか、自分で好きな本を買ってくるようにして図書館の本を充実させたと聞いている。同じ本が何冊も集まってしまうなど、いろいろな問題点があると思うがそういう取り組みをした学校があることを紹介する。

委員長により令和6年度子ども読書推進委員会を閉会した。